

## 平成 28 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

### 1. 学校概要

学校名 石巻市立鮎川小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校  
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育  
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ( )

所在地 〒986-2523  
宮城県石巻市鮎川浜清崎山 1-1

E-mail elsayukcl@ishinomaki.lg.jp

Website http://www.mediaship.ne.jp/~elsayuk/index/index.htm

児童生徒数 男子 16 名 女子 9 名 合計 25 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☐ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☐ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☒ 防災
- ☐ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☐ そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 「防災教育」通年実施

昨年度よりみやぎ防災教育推進協力校として宮城県教育委員会の指定を受けて取り組んでいる。2年目の今年は、学校安全に関連した学校行事の内容の見直しとアプローチの仕方を研究してきた。「みやぎ防災教育副読本」を活用した知識習得の時間、知識の深化と技能の習得の時間、それらを実践する体験行事をパッケージ化した鮎川小オリジナルの防災教育年間指導計画（添付資料参照）を作成し、取り組んできた。

平成23年度よりの取組テーマ、「体にしみ込んだ訓練」を目指し、様々な場面を設定した避難訓練を実践してきた。避難訓練に必要な知識や技術は行事前にしっかり指導しておくことで、応用的な活動が行えるようになった。技能の習得では、机の下にもぐることにもしっかりとした技能が必要であることを一人一人に体験させることができた。（添付写真1～5参照）

「自分の命を自分で守る」ことができる子どもたちを育てるために、学校での学習だけではなく、「家から逃げる訓練」や子どもが持ち出すもの（緊急持ち出し袋）についての勉強会も保護者とともにやってきた。お互いの持ち物を見て、「あ～なるほど～」など感心の言葉が出たり、なぜ持たせるのかを質問したりしあっていた。また、季節が変わると中身を入れ替えることも保護者同士で話し合う姿が見られるなど、家庭の防災意識も高めることができた。

鮎川には、昭和三陸津波の石碑があることも学び、清掃活動を行ったり、地域の方に伝えたりする活動を行った。（添付写真6～8参照）

これからは、子ども自身が命を守ることができれば、その保護者や祖父母、関連する人たち全員の命を危険にさらすことが無くなると考え、学校以外での命の守り方を地域とともにさらに訓練していく。

防災教育の研究を今後は、セーフティープロモーションスクールの領域に広め、更なる安全教育ができる学校として取り組んでいきたい。

#### 「伝統文化」通年実施

平成23年度の6年生が立ち上げた「牡鹿復興太鼓」を5・6年生が引き継ぎ、地域を元気にするためにと、地元でのイベントで演奏したり、仮設住宅や老人ホームを回って演奏したりしている。

次年度行われるリボンアートフェスティバルに向けて練習を続けながらも、地域合同運動会や学芸会、地域のイベントである鯨まつりで演奏を披露し、地域を元気にするお手伝いをしてきた。

また、「七福神舞」と呼ばれる舞も学校で取り組む活動の一つとして定着し、1年生～4年生の子どもたちが学んでいる。舞だけではなく口上や太鼓も教えられ、自分たちで全てをまかなえるまでになってきている。

11月には、復興商店街の「牡鹿のれん街5周年記念」のイベントに招かれ、商店街の通路で何度もアンコールを受けながら舞いを披露した。

鮎川の伝統文化を味わわせ、1人でも伝統文化の継承に将来携わる子どもができればと考えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☐ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☒ その他（毎月11日前後の業前活動10分を防災の時間として実施）





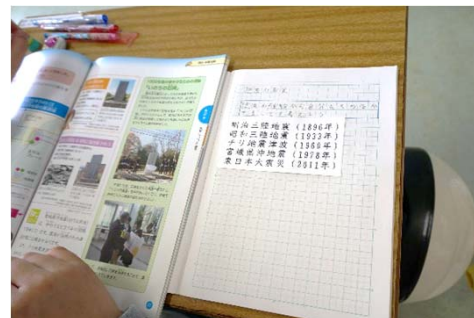






# 「学級活動」

(知識の深化・技術の習得)



津波について過去に波来した年や宮城県を襲った大きな地震についての知識を深化していく。

机の下にもぐることでも、技術が必要になってきます。体験を通してしっかりその技術を習得する時間が学級活動の時間。



# 「地域・実態把握」



どのような自然災害が鮎川で起きてきたのかを地域の方々から教えてもらう時間。津波が来る前に海で渦が巻いていた。チリ津波は静かに押し寄せてきた。など様々な歴史を学ぶ。



職員研修として地域探索を行い、鮎川には2つの碑があることを学んだ。

鮎小スタイル  
防災教育の方程式

防災の時間  
(知識の習得)

+

学級活動

(知識の深化・技術の習得)

+

学校安全行事

(体験活動による知識・技術の定着)

=

自ら判断し、自分の命を自分で守ることができる子

# 「防災の時間」

(知識の習得時間)



防災の時間(毎月11日前後に設定する業前活動)には、みやぎ防災副読本や石巻市未来へつなぐ防災の本を活用して、防災に関する知識を学ぶ。

年度初めの防災の時間には、東日本大震災による被害や犠牲者、防災教育を学ぶ理由について全校で学ぶ。



# 「学校安全行事」

(体験活動による知識・技術の定着)

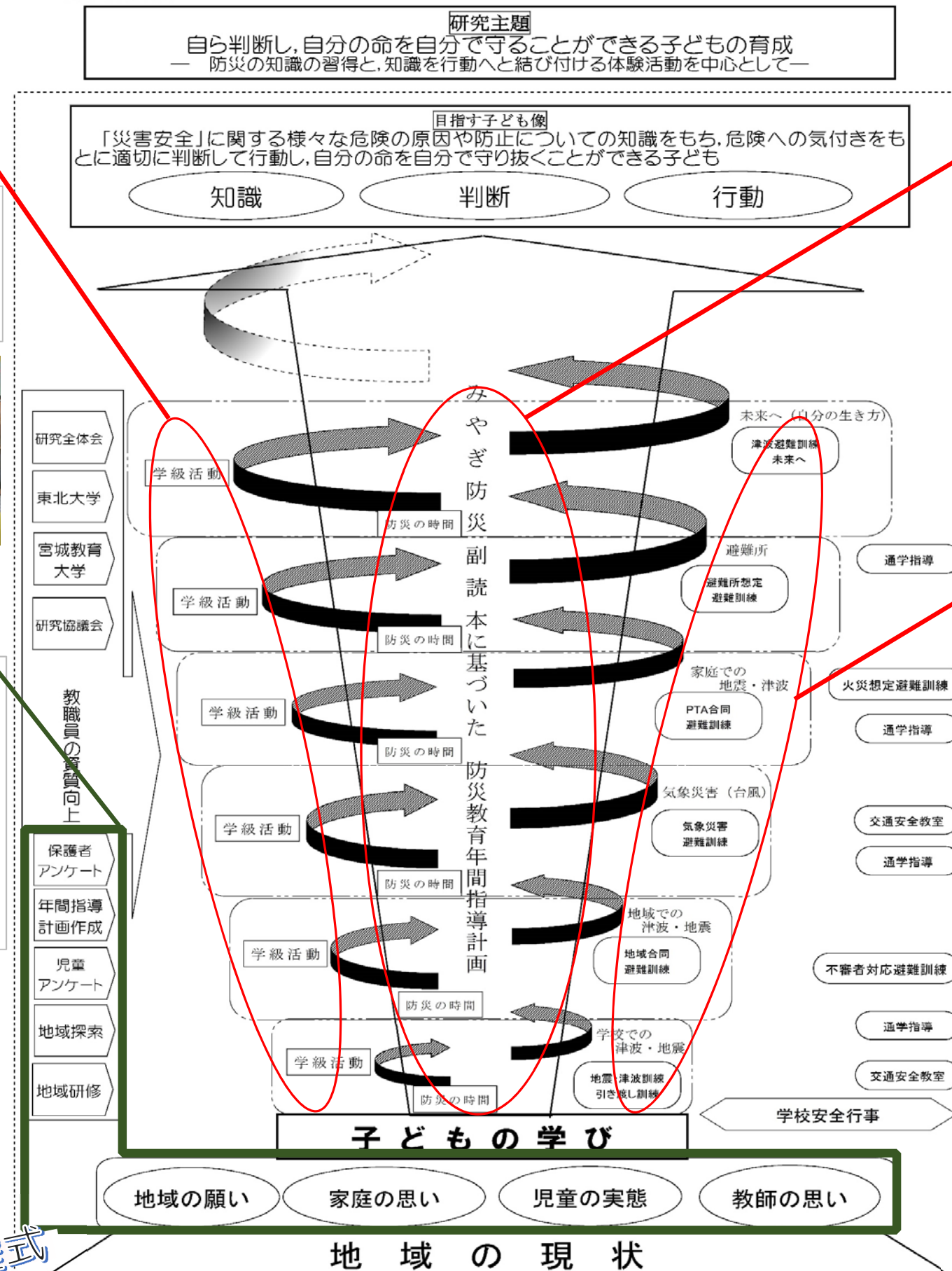


学校で自分の身の守り方を学んだ後に、自分たちの住む地域での避難訓練を行う。自分たちが逃げれば、地域の方々も一緒に逃げてくれることを学ぶ。

各課程で準備している非常時持ち出し袋を持ち寄る。中身の点検をしたり、お互いのバックの中身を見て勉強を保護者と一緒に体験し、知識と技術を定着させていく。



# 「ワンパック」





# 防災教育年間指導計画

## 作成手順

平成27年度・28年度宮城県教育委員会指定

みやぎ防災教育推進協力校

# 石巻市立鮎川 防災

平成27年度の研究主題・副題

「自ら判断し、自分の命を自分で  
守ることができる子どもの育成」

～副読本の活用を中心にした  
防災教育の推進を通して～

【研究の取組内容】

◎防災教育

- ・みやぎ防災教育副読本の内容に沿った年間指導計画の作成
- ・防災の時間（10分）の指導略案の作成
- ・地域とともに行う避難訓練の実施
- ・体験活動を重視した避難訓練の実施

◎教職員研修

- ・鮎川を知る会の実施
- ・防災教育研究視察
- ・校内研究授業実践（年6回）
- ・防災の時間の指導検討会
- ・防災教育教職員研修

【研究の成果（紀要より抜粋）】

- ・大学などの外部機関との連携を図り、年間指導計画の内容の充実を図ることができた。
- ・毎月1回業前に行う「防災の時間」で災害安全に関する知識を学び、学級活動や学校安全行事の中で体験活動に取り組みせることで、行動へと結びつけるという本校独自の指導スタイルが確立できた。

# 小学校の 教育

平成28年度の研究主題・副題

「自ら判断し、自分の命を自分で  
守ることができる子どもの育成」

～防災の知識の習得と、知識を行動へと  
結びつける体験活動を中心として～

【研究の取組内容】

◎防災教育

- ・年間指導計画の見直し  
知識の習得、知識の深化、技能の習得、知識・技術の活用の流れをワンパックとした年間指導計画を作成
- ・学校安全行事の見直し
- ・防災の時間（15分）の指導略案の改善

◎教職員研修

- ・鮎川を知る会の実施
- ・鮎川の地域探索
- ・防災教育研究視察
- ・校内研究授業実践（年5回）
- ・防災教育教職員研修

【研究の成果（10月31日時点）】

- ・防災ノートの概念地図表により子どもの防災に関する知識は増加し、さらにそれぞれが結びつきを見せていることから、知識の定着が図られていると考えられる。
- ・年間指導計画の見直しにより、鮎川の地域性を取り入れた年間指導計画の作成ができた。

防災教育年間指導計画 3・4年生									
目指す子ども像									
【自助】自分の身は自分で守る 〔知〕地域における防災に関する知識をもっている。 〔判〕その場の状況を理解し、避難行動への判断ができる状況の理解と避難行動への判断ができる。 〔行〕落ち着いて素早く行動する。				【共助】助け合い・共に生きる 〔知〕自分たちが周りの人たちのためにできることを知っている。 〔判〕自分たちができることを考えることができる。 〔行〕自分たちができることを率先して行う。		【公助】公の支援と備え 〔知〕地域や市・県にある防災の設備や施設を知っている。			
副読本単元名・おらい（○） 主な学習活動（数字）				取組時数（※ 防災の時間…10回 行事…6回 総合的な学習の時間…2回 学級活動…5回）		評価（方法）		行事・略案	
月	回	取組時数	主に自助中心の行事		知識	判断	行動	備考 （○教科との関連・	
4	学校での地震・津波対応	1 防災の時間	「3・11をわすれない」（第7章・1） ○東日本大震災で鮎川を襲った津波はどのようなものだったのかを絵本「トミジの海」を通して知る。 1 学習のめあてを知る。 <div>震災の時の鮎川の様子を知る。</div> 2 東日本大震災の様子を思い起こす 3 震災時の鮎川の様子について絵本「とみじの海」を通して知る。 4 震災の被害を少なくするために、これから何が必要かについて考える。 5 今年度の防災教育（防災の時間）の見直しを持ち、防災教育の意義について知る。		自助	東日本大震災の様子を知り、防災学習の意義を理解できたか。【防災ノート】		略案No. 1	◎斎藤富嗣さん
		2 学校行事	【地震・津波想定避難訓練及び引き渡し訓練】 ○地震はいつ起こるか分からない（第1章・2） ○地震はいつどこで起こるか分からないことを知り、地震が起こっても、慌てないで行動することの大切さを理解する。地震の予兆（地鳴り）について理解する。 1 地震発生時の避難の仕方について考える。 2 緊急地震速報機による訓練。 3 3つのない場所へ一次避難。 3 校庭への二次避難。 4 訓練のふり取り。（防災ノート） 5 引き渡し訓練。 6 親子で下校しながら危険箇所点検。		自助	地震によって起こり得る危険を把握し、どのような避難行動を取ることができるか。【観察】	避難訓練（地震・津波想定）・引き渡し訓練		
	知識の拡大	3 学級活動	「学校にいるときに地震が起こったら」（第2章・1） ○学校で地震が起こった場合の正しい初期対応を理解し（机の下・だんご熊のポーズ）また、揺れがおさまった後の安全行動を理解する。 1 めあてを知る。 <div>学校で地震が起こった時の行動について考えよう。</div> 2 一次避難について考える。 3 二次避難について考える。 4 学習のまとめをする。		自助	学校にいるとき、地震が起こった場合の正しい初期対応を理解し（机の下・だんご熊のポーズ）また、揺れがおさまった後の安全行動を理解する。【防災ノート】	地震によって起こり得る危険を把握し、どのような避難行動を取ることができるか。【観察・防災ノート】		
		4 防災の時間	地震による被害（第1章・3） ○地震による被害にはどのようなものがあるかを理解する。 1 地震による被害について考える。 2 めあてを知る。 <div>地震による被害について知る。</div> 3 地震による被害について知る。 4 学習のまとめをする。		自助	地震によって起こり得る危険を知り、その危険を回避する確法について理解できたか。【防災ノート】		略案No. 2	
6	地域での地震・津波対応	5 防災の時間	「津波を知る」（第1章・4） ○小さな地震でも起こることがあるなど、津波の特徴を知ること、自分の身を守るための大切さを理解する。（市の副読本P10） 1 津波について知っていることを挙げる。 2 めあてを知る。 <div>津波について知る。</div> 3 津波の速さ・力・動きについて捉える。 4 津波についてのよりくわしい知識を得る。 5 学習のまとめをする。		自助	津波が発生した場合の避難行動や避難場所、警報を理解できたか。【防災ノート】		略案No. 3	
		6 学級活動	「まちの防災施設・標識」（第4章・1） ○自分が住むまちには、どのような防災施設や標識があるのかを理解する。 1 標識の写真を見て、その意味や施設の使われ方を考える。 2 めあてを知る。 <div>鮎川にある防災施設や標識について知る。</div> 3 標識・施設がどんな場所に建てられているか考え、まとめる。 4 避難経路について知る。		公助	地域にある防災施設や標識（特に津波災害に関する）を理解できたか。【防災ノート】			◎鮎川源邸 ○4年社会科「まちの消防施設を探そう」

## 【平成28年度の作成手順】

- 1 みやぎ防教育副読本の内容の把握をする。（評価観点も含む）
- 2 地域の実情・子どもたちの実態把握をする。（地域性の重視）
- 3 教えていきたいことや習得させたい技術を実態に照らし合わせて選ぶ。
- 4 学校安全行事で知識・技術を活用させて身に付けさせたい内容を選ぶ。
- 5 学校安全行事に向けてどんな知識・技術を段階的に教えるかを考える。
- 6 防災の時間（知識）→学級活動（知識の深化・技術の習得）  
→学校安全行事（体験活動による知識・技術の定着）のワンパックの流れを作る。
- 7 防災教育年間指導計画として書き表す。

平成 28 年度版

# 防災教育年間指導計画



目指す子ども像		防災教育年間指導計画 3・4年生	
【自決】自分の安全に関与できる (知)地域における防災に関する知識をもっている。 (動)その場の状況を見極め、避難行動への判断ができる状況の理解と非協同行動への抑制ができる。 (行)自ら率先して避難行動できる。	【共決】助け合い、共に生きる (知)自分たちが住んでいる人たちのためにできることを知っている。 (動)自分たちができることを考えることができる。 (行)自分たちができることを率先して行う。	【他決】次の支えと備え (知)地域や市、県にある防災の設備や施設を知っている。	

同次学習管理表(学習記録)				
学年	科目・単元	単元別	学習内容(教科書・ページ)	学習日
1年	国語・1年次	1年次	1年次	1年次
2年	国語・2年次	2年次	2年次	2年次
3年	国語・3年次	3年次	3年次	3年次
4年	国語・4年次	4年次	4年次	4年次
5年	国語・5年次	5年次	5年次	5年次
6年	国語・6年次	6年次	6年次	6年次
7年	国語・7年次	7年次	7年次	7年次
8年	国語・8年次	8年次	8年次	8年次
9年	国語・9年次	9年次	9年次	9年次
10年	国語・10年次	10年次	10年次	10年次
11年	国語・11年次	11年次	11年次	11年次
12年	国語・12年次	12年次	12年次	12年次
13年	国語・13年次	13年次	13年次	13年次
14年	国語・14年次	14年次	14年次	14年次
15年	国語・15年次	15年次	15年次	15年次
16年	国語・16年次	16年次	16年次	16年次
17年	国語・17年次	17年次	17年次	17年次
18年	国語・18年次	18年次	18年次	18年次
19年	国語・19年次	19年次	19年次	19年次
20年	国語・20年次	20年次	20年次	20年次
21年	国語・21年次	21年次	21年次	21年次
22年	国語・22年次	22年次	22年次	22年次
23年	国語・23年次	23年次	23年次	23年次
24年	国語・24年次	24年次	24年次	24年次
25年	国語・25年次	25年次	25年次	25年次
26年	国語・26年次	26年次	26年次	26年次
27年	国語・27年次	27年次	27年次	27年次
28年	国語・28年次	28年次	28年次	28年次
29年	国語・29年次	29年次	29年次	29年次
30年	国語・30年次	30年次	30年次	30年次
31年	国語・31年次	31年次	31年次	31年次
32年	国語・32年次	32年次	32年次	32年次
33年	国語・33年次	33年次	33年次	33年次
34年	国語・34年次	34年次	34年次	34年次
35年	国語・35年次	35年次	35年次	35年次
36年	国語・36年次	36年次	36年次	36年次
37年	国語・37年次	37年次	37年次	37年次
38年	国語・38年次	38年次	38年次	38年次
39年	国語・39年次	39年次	39年次	39年次
40年	国語・40年次	40年次	40年次	40年次
41年	国語・41年次	41年次	41年次	41年次
42年	国語・42年次	42年次	42年次	42年次
43年	国語・43年次	43年次	43年次	43年次
44年	国語・44年次	44年次	44年次	44年次
45年	国語・45年次	45年次	45年次	45年次
46年	国語・46年次	46年次	46年次	46年次
47年	国語・47年次	47年次	47年次	47年次
48年	国語・48年次	48年次	48年次	48年次
49年	国語・49年次	49年次	49年次	49年次
50年	国語・50年次	50年次	50年次	50年次
51年	国語・51年次	51年次	51年次	51年次
52年	国語・52年次	52年次	52年次	52年次
53年	国語・53年次	53年次	53年次	53年次
54年	国語・54年次	54年次	54年次	54年次
55年	国語・55年次	55年次	55年次	55年次
56年	国語・56年次	56年次	56年次	56年次
57年	国語・57年次	57年次	57年次	57年次
58年	国語・58年次	58年次	58年次	58年次
59年	国語・59年次	59年次	59年次	59年次
60年	国語・60年次	60年次	60年次	60年次
61年	国語・61年次	61年次	61年次	61年次
62年	国語・62年次	62年次	62年次	62年次
63年	国語・63年次	63年次	63年次	63年次
64年	国語・64年次	64年次	64年次	64年次
65年	国語・65年次	65年次	65年次	65年次
66年	国語・66年次	66年次	66年次	66年次
67年	国語・67年次	67年次	67年次	67年次
68年	国語・68年次	68年次	68年次	68年次
69年	国語・69年次	69年次	69年次	69年次
70年	国語・70年次	70年次	70年次	70年次

		<p>・各駅で乗客、乗客送迎のサービスが提供されているほか、沿線には様々な観光資源がある。</p> <p>・沿線には、いろいろな観光資源がある。サービスが提供されているほか、沿線には様々な観光資源がある。</p> <p>・沿線には、いろいろな観光資源がある。サービスが提供されているほか、沿線には様々な観光資源がある。</p> <p>・沿線には、いろいろな観光資源がある。サービスが提供されているほか、沿線には様々な観光資源がある。</p>
観光 分析	<p>① 学習の成果をまとめる。</p> <p>(1) 沿線の観光資源のマップを制作し、</p> <p>(2) 観光資源をまとめる。</p>	<p>① 沿線の観光資源のマップを制作し、</p> <p>(1) 沿線の観光資源のマップを制作し、</p> <p>(2) 沿線の観光資源をまとめる。</p>

学年部年間指導計画  
防災の時間指導略案  
石巻市立鮎川小学校



# 防災教育年間指導計画 1・2年生

## 目指す子ども像

【自助】自分の身は自分で守る  
(知)学校・家庭を中心にした身近な場所における防災に関する知識をもっている。  
(判)身近な場所において避難行動への判断ができる。

【共助】助け合い・共に生きる  
(知)集団生活の中では、約束やきまりを守ることが大切であることを知っている。

【公助】～公の支援と備え～  
(知)学校にある防災の設備について知っている。

取扱時数 (※ 防災の時間… 10 回 行事… 6 回 学級活動… 6 回 生活科… 1 回)									
月	回	取扱時間	副読本単元名・ねらい (○) 主な学習活動 (数字)	【方法】 評 価			行事・略案No.	備 考 (○教科との関連・ ◎外部講師等)	
				知識	判断	行動			
主 に 自 助 中 心 の 行 事									
4	学校での地震・津波対応	1	防災の時間 「東日本大震災をわすれない」(第1章・1) ○東日本大震災で鮎川を襲った津波はどのようなものだったかを絵本「トミジの海」を通して知る。 1 東日本大震災の様子を思い起こす 2 震災時の鮎川の様子について絵本「とみじの海」を通して知る 3 震災の被害を少なくするために、これから何が必要かについて考える。 4 今年度の防災教育(防災の時間)の見通しを持ち、防災教育の意義について知る。	自助	東日本大震災では鮎川も津波による被害を受けたことを知ることができたか。 【防災ノート】			略案 No. 1	◎齋藤富嗣さん
		2	学校行事 【地震・津波想定避難訓練及び引き渡し訓練】 学校にいるときに地震がおこったら(第3章・1) ○学校で地震による揺れを感じた場合の身の守り方の基本を理解する。(机の下に避難する)また、揺れがおさまった後の安全な避難行動(避難経路)について理解する。 1 地震発生時の避難の仕方について考える。 2 緊急地震速報機による訓練。 「3つのない」場所へ一次避難。 3 校庭への二次避難。 4 訓練のふり返り。(防災ノート) 5 引き渡し訓練。 6 親子で下校しながら危険箇所点検。	自助		地震が起こった際、どのように避難行動を取るか判断できたか。 【観察・防災ノート】	落ち着いて避難行動を取ることができたか。 【観察】	避難訓練(地震・津波想定)・引き渡し訓練	
		3	学級活動 「家でくで話し合おう」(第2章・1) ○災害にそなえて家族で話し合うことの大切さを理解する。 1 東日本大震災の時の鮎川の様子を知る。 2 鮎川での安全な所で自分の家に近いところはどこか考える。	自助	東日本大震災の時の家族の様子を知ることや、津波等から身を守る方法を知る	1 人での時に災害が起きた場合、どのように避難行動をとるか判断することがで			

				3 家に一人でいる時に災害が起こったらどうすればいいのか家族と話し決めることを知る。 (例：近所の人と〇〇の高台へ逃げる)		ことができたか。 【防災ノート】	きたか。 【観察・防災ノート】			
5	知識の拡大	4	防災の時間	「津波」(第2章・3) ○津波の特徴を知るとともに、沿岸部の鮎川で地震が起きた際には、津波に注意した行動を取る必要があることを知る。(市の防災副読本P10・11) 1 津波とはどんな波なのか教師の体験談を聞かせる 2 本時のめあてを知る。 「つなみ」ってどんなものかしろう 3 副読本を読みながら、津波の性質や特徴を知る。 4 津波の映像を見る。 5 津波の体験作文を聞く。 6 学習のまとめをする。	自助	津波の特徴を理解できたか。 【防災ノート】			略案 No. 2	
		5	生活科	「海の近くにいるときに地震がおこったら」(第3章・4) ○津波が予想される際の、身近な場所における避難行動について理解する。 1 大きな地震の後には津波がくることを知る。 2 津波から身を守るためには高いところへ避難することを知る。 3 鮎川や自分たちの家の近くにある、高いところを確認する。 4 学習のまとめをする。	自助	津波が起きた際の避難の仕方を理解できたか。 【防災ノート】	津波から自分の命を守る方法を考えることができたか。 【観察・防災ノート】			○生活科 生活科 第1学年及び第2学年 【内容】学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えて人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。
主 に 自 助 中 心 の 行 事										
6	地域での地震・津波対応	6	防災の時間	「地震」(第2章・2) ○地震の特徴や、地震が起こるとどのような危険があるのかを理解する。 1 大きな地震とはどんなものなのか教師の体験談を聞かせる。 2 本時のめあてを知る。 大きなじしんって どんなものか しろう 3 副読本を読みながら、大きな地震の危険について知る。 4 地震の映像を見る。 5 地震の体験作文を聞く。 6 学習のまとめをする。	自助	地震の特徴やそれに伴う危険を理解できたか。 【防災ノート】			略案 No. 3	
		7	学級活動	「学校にいるときに地震がおこったら」(第3章・1) ○学校で地震による地鳴りや揺れを感じた場合の身の守り方の基本を理解する。(「机をおさえる」「だんご虫ポーズ」「3つのない」場所) ・机のおさえ方を知る。・起震器で体験する。 1 地震の時の家の中の様子がわかる動画を見て、危険な所や物にはどういうものがあるのかを知る。 2 机やテーブルの下にかくれるときに気をつけることを知る。(脚のおさえ方、だんごむしポーズ)	自助	教室にいるときに地震が起きた際の身の守り方を理解することができたか。 【防災ノート】	学校で地震が起こった際、どのような避難行動を取るか判断できたか。 【観察・防災ノート】			



				3 起震器で実際の揺れを体験したり，だんごむしポーズや机の抑え方を体験する。 4 学習のまとめをする。						
		8	学校行事	【地震・津波想定避難訓練（校外想定）】 「外にいるときに地震がおこったら」（第3章・3） ○外で地震の揺れを感じた場合の身の守り方の基本を理解する。 1 鮎川港付近にて津波からの避難の仕方について知る。 2 地震発生想定訓練 「3つのない」場所へ避難行動。 3 津波発生想定訓練 高台への避難行動。 4 津波の歴史について調べたことを発表する。 5 学習のまとめをする。	自助		外で地震が起こった際，どのように避難行動を取るか判断できたか。 【観察・防災ノート】	落ち着いて避難行動を取ることができたか。 【観察】	地域合同避難訓練	◎鮎川漁協婦人部
7	知識の拡大	9	防災の時間	「家にいるときに地震がおこったら」（第3章・2） ○家にいるときに地震が起きた際の身の守り方の基本を理解する。（「3つのない」場所等） 1 家の中にはどのような部屋（場所）があるかを思い起こす。 2 本時のめあてを知る。 <div>いえにいるときじしんがおきたら どうすればいいかな</div> 3 家にいるときに地震が起きた場合，どう行動するかを考える。 4 副読本の中の絵を見て，地震が起きたときの家の中の様子について考える。 5 副読本の中の絵を基に，身を守る方法について考える。 6 家にいるときでも地震から身を守るには，3つの「ない」場所に行くことが大事であることを確認する。 7 学習のまとめをする。	自助	地震が起きた際の身の守り方を理解できたか。 【防災ノート】			略案 No. 4	
主 に 自 助 中 心 の 行 事										
9	気象災害対応	10	防災の時間	「空のようすがかわったら」（第2章・4） ○空の様子が急に変わると，どのような危険があるかを理解する。 1 災害にはどのようなものがあるのかを知る。 2 本時のめあてを知る。 <div>そらのようすがかわったらどんなきけんがあるかしろう。</div> 3 洪水，土砂崩れ，雷，竜巻は，どのような災害なのかを知る。 4 学習のまとめをする。	自助	洪水や土砂崩れなどの自然災害について理解できたか。 【防災ノート】			略案 No. 5	
		11	学級活動	「黒い雲が近づいてきたら」（第3章・5） ○大雨や突風などの際の身を守るための方法を理解する。（市の防災副読本P 37） 1 気象災害にはどのようなものがあるか，考えさせる。 2 大雨，雷，突風，大雪などの気象災害ではどのような危険があるか知る。 3 雨戸の用途やカーテンを閉めることで防災できることを	自助	大雨や突風などから身を守る方法を理解できたか。 【防災ノート】	大雨や突風などに遭遇した際，どのように避難行動を取るか判断できたか。 【観察・防災ノート】			

				知る。 4 学習のまとめをする。						
		12	学校行事	【気象災害想定避難訓練(台風・豪雨・高潮・積雪・落雷)】 「黒い雲が近づいてきたら」(第3章・5) ○大雨や突風などの際の身を守るための方法を理解する。 (市の防災副読本P37) 1 気象災害で起こり得る危険を話し合う。 2 危険を回避するために方法を班ごとに話し合い、実践する。 (停電・強風による窓の破損・非常持ち出し袋の準備・避難所におけるトイレの確保) 3 各班の活動内容を交流する。 4 学習のまとめをする。(防災ノート)	自助		大雨や突風などに遭遇した際、どのように避難行動を取るか判断できたか。 【観察・防災ノート】	落ち着いて避難行動を取ることができたか。 【観察】		
主 に 共 助 中 心 の 行 事										
10	家庭での地震・津波対応	13	防災の時間	「家ぞくで話し合おう」(第2章・1) ○東日本大震災のときの様子を家族に聞いて、震災の様子について知るとともに、児童用携帯マニュアルにより避難場所の確認をすることができるようにさせる。 1 東日本大震災が発生したとき、自分はどこにいたかを発表する。 2 本時のめあてを知る。 もしものとき どうしたらいいか おぼえておこう 3 副読本の絵を見て、何をしているところなのかを考える。 4 東日本大震災のときのことを家族に聞いてくるということを知る。 5 学習のまとめをする。	自助	東日本大震災のときの家族の様子や、避難場所について理解できたか。 【防災ノート】			略案 No.6	
		14	学級活動	「学校内の命を守るものをさがそう」(第5章・1) ○鮎川小学校内にある命を守る設備について理解する。 1 命を守る設備について知る。 (消火設備、AED、非常階段、火災報知器等) 2 自分達でも使えそうな物を探してみたり、いざという時どうしたらよいのかを知る。 3 防災倉庫の中にあるものを知る。 4 学習のまとめをする。	公助	学校にある防災の設備について理解できたか。 【防災ノート】	状況に応じて、どのような防災備品・設備を使用すればよいか判断できたか。 【観察・防災ノート】			
		15	学校行事	【PTA合同避難訓練(防災備品を活用した訓練)】 「家ぞくで話し合おう」(第2章・1) ○避難所や自宅で避難生活を続けていくために、必要な食料の確保の仕方を理解する。 1 緊急地震速報機による訓練。 2 避難所想定訓練及び炊き出し訓練。 空き缶コンロによるアルファ米づくり・炊き出し豚汁 3 各家庭の非常持ち出し袋を紹介し合う。 4 学習のまとめをする。	共助		状況に応じて、どのような防災備品・設備を使用すればよいか判断できたか。 【観察・防災ノート】	防災備品及び防災バックを活用して食料を確保することができたか。 【観察】		◎PTA・学校前 仮設住宅住民



主 に 共 助 中 心 の 行 事									
11	避難所での対応	16	防災の時間	「助け合って生活するために」(第4章・1) ○避難所での生活について知り、避難所では、約束やきまりを守り、互いに助け合って生活することが大切であることを理解する。 1 避難所の様子を写した写真を見て、避難所での生活は普段の生活とは全く違い、困ることがいろいろあることを捉える。 2 本時のめあてを知る。 <div>ひなんじょで きをつけることは どんなことかな</div> 3 避難所でたくさんの人たちと一緒に生活するためには、どのようなことが大切かを考える。 4 学習のまとめをする。	共助	集団生活では、約束やきまりを守ることの大切さを理解できたか。  【防災ノート】		略案 No.7	
		17	学校行事	【避難所想定避難訓練(防災教育発表)】 【第4章】 1. 助け合って生活するために (第4章・1) ○避難所での生活について知り、避難所では、約束やきまりを守り、互いに助け合って生活することが大切であることを理解する。 1 避難所想定の避難訓練であることを知る。 2 避難所で起こる様々な課題について解決策を各班ごとに考え、実践する。 3 各班の活動を交流する。 4 学習のまとめをする。	共助	自分のできることに について判断することができたか。  【観察・防災ノート】	避難所で自分達にできることを進んで行うことができたか。  【観察】		
		18	学級活動	「ぼくとお父さんのボランティア活動」(第4章) ○多くの人たちと集団で生活するときは、自分でできることを進んでしようとすることや、約束、きまりを守り、助け合って生活することが大切であることを理解する。 1 避難所とはどのようなところなのかを知る。 2 共に助け合って生活することの大切さや、決まりを守ることの大切さについて考える。 3 「子ども達がきめたやくそく」の意味を考える。 4 学習のまとめをする。	共助	集団生活の中では、約束やきまりを守ることや互いに助け合うことが大切であることを理解できたか。  【防災ノート】	訓練の様子をふり返り、きまりを守ることの大切さの他に避難所で自分達ができることを考え、判断することができたか。  【観察・防災ノート】		
12	知識の拡大	19	防災の時間	「わたしたちを守る地いきの人々」(第5章・2) ○地域では様々な人たちが自分たちの安全を守ってくれていることを知る。 1 生活している中で、どのような危険があるか発表する。 2 本時のめあてを知る。 <div>あんぜんに せいにかつできるのは だれのおかげかな</div> 3 安全を守ってくれる人たちには、どのような人たちがいるかを知る。 4 自分たちの地域の安全を守ってくれている人たちについて考える。 5 学習のまとめをする。	公助	地域では様々な人たちが自分たちの安全を守ってくれていることを理解できたか。  【防災ノート】		略案 No.8	
				「かせつじゅうたくを作るしごと」(第7章)		震災時に頑張っ		略案 No.9	

2	知識の拡大	20	防災の時間	<p>○小学生の体験作文から、震災当時、仮設住宅を建てるために頑張っていた人たちの姿を通して、自分のこれからの生き方について考えることの大切さを理解させる。</p> <p>1 校庭に仮設住宅が建てられた訳を知る。</p> <p>2 本時のめあてを知る。</p> <p>こまっている人のために はたらく人のことを しろう</p> <p>3 小学生の体験作文を読む。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p>	公助	<p>ていた人たちについて知り、自分のこれからの生き方を考えることの大切さを理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>				
主に自助中心の行事										
3	未来へ	21	防災の時間	<p>○地震や津波などを体験すると、後で腹痛が起きたり、いらいらしたりすることがあることや、そのときの対処の仕方について知る。</p> <p>1 最近腹痛を起こしたり、いらいらしたりすることがないか、ふり返ってみる。</p> <p>2 本時のめあてを知る。</p> <p>かなしいときやこわいときにはどうすればいいかしろう</p> <p>3 地震や津波などで悲しいことや怖いことを体験すると、後でいろいろな症状が出てくることがあることを知る。</p> <p>4 対処の仕方について知る。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>震災などの後の心身の不調と、その対処方法について理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>			略案 No. 10	
		22	学校行事	<p>【地震・津波想定避難訓練および鎮魂】</p> <p>「未来に向かって」（第7章）</p> <p>○震災後の今、周りの人たちと共に力を合わせて、前を向いて生活していくことが大切であることを理解させる。</p> <p>1 旧消防署跡地からの避難の仕方について知る。</p> <p>2 地震発生想定訓練 「3つのない」場所避難行動。</p> <p>3 津波発生想定訓練 高台への避難行動。</p> <p>4 みやぎ鎮魂の日の意義について知る。</p> <p>5 東日本大震災の被害について知り、黙祷をささげる</p> <p>6 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>自分の命を自分で守るためにどのように行動すればよいか判断できたか。</p> <p>【観察・防災ノート】</p>	<p>落ち着いて避難行動を取ることができたか。</p> <p>【観察】</p>		みやぎ鎮魂の日	◎石巻市役所牡鹿総合支所
		23	学級活動	<p>「未来に向かって・あたりまえ」（第7章）</p> <p>○家族に感謝するとともに、友達と一緒に学校生活を大切にするために必要なことは何かを理解する。</p> <p>1 1年間の学習を振り返る。</p> <p>2 家族への感謝の念を抱くとともに、友達と協力することの大切さを知る。</p> <p>3 約束やきまりについてふり返り、良かったところや悪かったところを考え、次にいかす。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>自分や家族、友達の存在の大切さを理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>	<p>学校生活を大切にするために必要なものは何かを判断することができたか。</p> <p>【観察・防災ノート】</p>			



# 防災教育年間指導計画 3・4年生

## 目指す子ども像

【自助】自分の身は自分で守る  
 (知)地域における防災に関する知識をもっている。  
 (判)その場の状況を理解し、避難行動への判断ができる状況の理解と避難行動への判断ができる。  
 (行)落ち着いて素早く行動する。

【共助】助け合い・共に生きる  
 (知)自分たちが周りの人たちのためにできることを知っている。  
 (判)自分たちができることを考えることができる。  
 (行)自分たちができることを率先して行う。

【公助】公の支援と備え  
 (知)地域や市・県にある防災の設備や施設を知っている。

取扱時数 (※ 防災の時間… 10 回 行事… 6 回 総合的な学習の時間… 2 回 学級活動… 5 回 )

月	回	取扱時数	副読本単元名・ねらい (○) 主な学習活動 (数字)	評 価			行事・略案	備 考 (○教科との関連・ ◎地域とのつながり)	
				知識	判断	行動			
主 に 自 助 中 心 の 行 事									
4	学校での地震・津波対応	1	「3・11をわすれない」(第7章・1) ○東日本大震災で鮎川を襲った津波はどのようなものだったのかを絵本「トミジの海」を通して知る。 1 学習のめあてを知る。 <div>震災の時の鮎川の様子を知ろう。</div> 2 東日本大震災の様子を思い起こす 3 震災時の鮎川の様子について絵本「とみじの海」を通して知る。 4 震災の被害を少なくするために、これから何が必要かについて考える。 5 今年度の防災教育(防災の時間)の見通しを持ち、防災教育の意義について知る。	自助	東日本大震災の様子を知り、防災学習の必要性を理解できたか。 【防災ノート】			略案No. 1 ◎齋藤富嗣さん	
		2	【地震・津波想定避難訓練及び引き渡し訓練】 「地震はいつ起こるかわからない」(第1章・2) ○地震はいつどこで起こるかわからないことを知り、地震が起こっても、慌てないで行動することの大切さを理解する。地震の予兆(地鳴り)について理解する。 1 地震発生時の避難の仕方について考える。 2 緊急地震速報機による訓練。 「3つのない」場所へ一次避難。 3 校庭への二次避難。 4 訓練のふり返り。(防災ノート) 5 引き渡し訓練。 6 親子で下校しながら危険箇所点検。	自助		地震によって起こり得る危険について判断できたか。 【観察・防災ノート】	落ち着いて素早く避難行動を取ることができたか。【観察】	避難訓練(地震・津波想定)・引き渡し訓練	
			「学校にいるときに地震が起こったら」(第2章・1)		学校にいるとき	地震によって起			

		3	学級活動	<p>○学校で地震が起こった場合の正しい初期対応を理解し（机の下・だんご虫のポーズ）また、揺れがおさまった後の安全行動を理解する。</p> <p>1 めあてを知る。</p> <div>学校で地震が起きた時の行動について考えよう。</div> <p>2 一次避難について考える。</p> <p>3 二次避難について考える。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>の避難行動を理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>	<p>こり得る危険を把握し、どのように避難行動を取るか判断できたか。</p> <p>【観察・防災ノート】</p>			
5	知識の拡大	4	防災の時間	<p>「地震による被害」（第1章・3）</p> <p>○地震による被害にはどのようなものがあるかを理解する。</p> <p>1 地震による被害について考える。</p> <p>2 めあてを知る。</p> <div>地震による被害について知ろう。</div> <p>3 地震による被害について知る。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>地震によって起こり得る危険を知り、その危険を回避する備えについて理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>			略案No. 2	
主 に 自 助 中 心 の 行 事										
6	地域での地震・津波対応	5	防災の時間	<p>「津波を知る」（第1章・4）</p> <p>○小さな地震でも起こることがあるなど、津波の特徴を知ること、自分の身を守ることができることの大切さを理解する。（市の副読本P 10）</p> <p>1 津波について知っていることを挙げる。</p> <p>2 めあてを知る。</p> <div>津波について知ろう。</div> <p>3 津波の速さ・力・動きについて捉える。</p> <p>4 津波についてのよりくわしい知識を得る。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>津波が発生した場合の避難行動や避難場所、警報を理解できたか。【防災ノート】</p>			略案No. 3	
		6	学級活動	<p>「まちの防災施設・標識」（第4章・1）</p> <p>○自分が住むまちには、どのような防災施設や標識があるのかを理解する。</p> <p>1 標識の写真を見て、その意味や施設の使われ方を考える。</p> <p>2 めあてを知る。</p> <div>鮎川にある防災施設や標識について知ろう。</div> <p>3 標識・施設がどんな場所に建てられているか考え、まとめる。</p> <p>4 避難場所について考える。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p>	公助	<p>地域にある防災施設や標識（特に津波災害に関する）を理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>				<p>◎鮎川漁協</p> <p>○4年社会科「まちの消防施設を探そう」</p>
		7	学校行事	<p>【地震・津波想定避難訓練（校外想定）】</p> <p>「登下校中や外で地震と津波が起こったら」（第2章・3）</p> <p>○登下校中や外で地震や津波が起こった場合の正しい初期対応を理解し、また、揺れがおさまった後の安全行動を</p>	自助		<p>地震によって起こり得る危険を把握し、どのように避難行動を</p>	<p>落ち着いて素早く避難行動を取ることができたか。【観察】</p>		◎鮎川漁協婦人部

			理解する。 1 鮎川港付近にて津波からの避難の仕方について知る。 2 地震発生想定訓練 「3つのない」 場所へ避難行動。 3 津波発生想定訓練 高台への避難行動。 4 津波の歴史について調べたことを発表する。 5 学習のまとめをする。(防災ノート)		取るか判断できたか。 【観察・防災ノート】			
7	知識の拡大	8 防災の時間	「家にいるときに地震が起こったら」(第2章・2) ○家で地震が起こった場合の正しい初期対応を理解し、また、揺れがおさまった後の安全な行動の仕方を理解する。 また、家にある非常用袋の中身や場所を確認する。 (市の副読本P 7) 1 学校で地震が起きた時の行動を確認する。 2 めあてを知る。 <div>家で地震が起きた時の行動について考えよう。</div> 3 揺れが収まるまでの避難の仕方を考える。 4 揺れが収まってからの動きについて確認する。 5 学習のまとめをする。	自助 家にいるときの避難行動を理解できたか。 【防災ノート】			略案No. 4	
主 に 自 助 中 心 の 行 事								
9	気象災害対応	9 防災の時間	「台風などによる被害」(第1章・5) ○台風や梅雨の時期の大雨や強風などによる被害(土砂崩れや河川の増水、停電)を知ること、自分の身を守ることの大切さを理解する。鮎川で過去に起こった風水害についても触れる。 1 台風による災害はどのようなものがあるか知っているものを挙げる。 2 めあてを知る。 <div>台風などの被害には、どのようなものがあるか知ろう。</div> 3 台風などによる被害について捉える。 4 学習のまとめをする。	自助 台風などの気象災害について理解できたか。 【防災ノート】			略案No. 5	○3年理科 「明かりをつけよう」
		10 学級活動	「台風などから身を守るために」(第2章・5) ○台風などによる風水害から身を守るための方法を理解する。 1 台風の被害についてふり返る。 2 めあてを知る。 <div>台風の被害から身を守る方法を知ろう。</div> 3 台風の被害から身を守る方法について知る。 4 防災倉庫の中身を確認する。 5 学習のまとめをする。	自助 台風などの気象災害時の避難行動について理解できたか。 【防災ノート】	気象災害によって起こりうる危険からどのような避難行動を取るか判断できたか。 【観察・防災ノート】			
		11 学校行事	【気象災害想定避難訓練 (集中豪雨・高潮・積雪・落雷)】 「台風などから身を守るために」(第2章・5) ○台風などによる風水害から身を守るための方法を理解する。	自助	気象災害によって起こりうる危険からどのような避難行動を取る	知識を活用して、安全な避難行動を取ることができたか。【観察】		



			1 気象災害で起こり得る危険を話し合う。 2 危険を回避するために方法を班ごとに話し合い、実践する。(停電・強風による窓の破損・非常持ち出し袋の準備避難所におけるトイレの確保 3 各班の活動内容を交流する。 4 ふり返りをする。(防災ノート)		るか判断できたか。 【観察・防災ノート】				
主 に 自 助 中 心 の 行 事									
10	家庭での地震津波対応	12	防災の時間 「家族で話し合おう」(第2章・6) ○災害に備え、事前に家族で話し合っておくことの大切さを理解する。また、家族と一緒に、災害時携帯マニュアルについて確認する。 1 家族で災害について話し合っているか確認する。 2 めあてを知る。 <div>災害が起こった時のために家族で話し合うことを考えよう。</div> 3 非常持ち出し袋について考える。 4 家族で話し合うことを防災ノートに記入する。 5 学習のまとめをする。	自助	地震に備えて、被害を防ぐ対策などを話し合う大切さを理解できたか。 【防災ノート】			略案No. 6	
		13	学校行事 【PTA合同避難訓練 (防災備品を活用した訓練)】 「家族で話し合おう」(第2章・6) ○災害に備え、避難所や避難生活に必要な食料・明かり・暖の確保の仕方を理解する。 1 緊急地震速報機による訓練 2 避難所想定訓練及び炊き出し訓練 空き缶コンロによるアルファ米づくり・炊き出し豚汁 3 各家庭の非常持ち出し袋を紹介し合う。 4 ふり返りをする。(防災ノート)	自助		状況に応じて、どのような防災備品・設備を使用すればよいか判断できたか。 【観察・防災ノート】	防災備品及び防災バックを活用して食料を確保することができたか。【観察】		◎PTA・学校前仮設住宅住民
		14 15	総合的な・学習の時間 「防災マップ・復興マップをつくろう」(第2章・7) ○防災意識の向上を図るとともに、地域への関心や愛着をもたせ、自分の身は自分で守るという姿勢や将来のまちづくりを考える姿勢を育む。 1 防災施設や標識についてふり返る。 2 めあてを知る。 <div>鮎川防災マップを作ろう</div> 3 鮎川防災マップを作る。 4 学習のまとめをする。	共助	地域を調べ、災害における地域の危険性や安全性を理解できたか。【防災ノート】	地域の危険を軽減するための方法を判断することができたか。 【観察・防災ノート】			○4年社会科「まちの安全マップを作ろう」 ○逃げ地図作り
主 に 共 助 中 心 の 行 事									
		16	防災の時間 「助け合って生活するために」(第3章・1) ○避難所などで互いに助け合って生活するためには、挨拶や地域行事への参加など、日頃から地域の繋がりを大切にすることを理解する。 1 避難所の状況をつかむ 2 めあてを知る。	共助	避難所では、協力して生活をしたり、自分にできることを進めたりすることの大切さを理	避難所で自分達ができることを考え、実際に何ができるかを判断することができたか。		略案No. 7	

11	避難所での対応		<div>避難所での自分たちの役割を考えよう</div> <p>3 避難所での課題点を把握する。 4 自分たちに解決できそうな課題はどれか考える。 5 学習のまとめをする。</p>		<p>解できたか。 【防災ノート】</p>	【観察・防災ノート】			
		17 学校行事	<p>【避難所想定避難訓練(防災教育発表)】 「助け合って生活するために」(第3章・1) ○避難所で互いに助け合い、協力して生活するために、自分たちが進んでできることに取り組むことが大切であることを理解する。 1 避難所想定避難訓練であることを知る。 2 避難所で起こる様々な課題について解決策を各班ごとに考え、実践する。 3 各班の活動を交流する。 4 ふり返りをする。(防災ノート)</p>	共助		<p>避難所で自分達ができることを考え、実際に何ができるかを判断することができたか。 【観察・防災ノート】</p>	避難所で自分達で進んで行うことができたか。 【観察】		
		18 学級活動	<p>「みんながいたからがんばれた」(第5章・1) ○みんなが助け合うことの大切さが自分たちができることを協力することの大切さを理解する。 1 避難所で自分たちにできることについてどのようなものがあったかふり返る。 2 めあてを知る。  <div>みんなで協力することの大切さを知ろう</div> <p>3 「みんながいたからがんばれた」を読む。 4 避難所で自分たちにできることを考える。 5 学習のまとめをする。</p> </p>	共助	<p>訓練の様子や作文を読み、自分ができることを進んで行うことの大切さを理解できたか。 【防災ノート】</p>	<p>訓練の様子や作文をもとに更に避難所で自分達ができることを考え、判断することができたか。 【観察・防災ノート】</p>			
12	知識の拡大	19 防災の時間	<p>「災害時の救助活動」(第4章・2) ○人の命を救うための仕事や東日本大震災でその活動に携わった人々の思いを理解する。 1 災害時に働いていた人々について考える。 2 めあてを知る。  <div>災害の時に、どのような人々がどのような思いで、人の命を救うために働いていたのか考えよう。</div> <p>3 災害時に働いていた人々の思いについて考える。 4 そのような人々にどうしたら感謝の気持ちが伝えられるか考える。 5 学習のまとめをする。</p> </p>	自助	<p>災害時の救助活動やその活動に携わる人の思いを理解できたか。 【防災ノート】</p>			略案No. 8	
2	知識の拡大	20 防災の時間	<p>「悲しい気持ち、こわい気持ち」(第5章・1) ○「悲しい気持ち、怖い気持ち」は誰にでも起こる自然なことであることや身近にいる友達や安心できる場所の大切さについて理解する。 1 地震が起こった時の気持ちを考える。 2 めあてを知る。</p>	自助	<p>震災後の気持ちの変化について理解できたか。 【防災ノート】</p>	<p>どのように気持ちのセルフケアをすべきか、判断することができたか。 【観察・防災ノート】</p>		略案No. 9	

			<p>悲しいとき、こわいときにどのようにすればよいか考えよう。</p> <p>3 不安や悲しい気持ちは体の不調につながることを知る。 4 対処の仕方を知る。 5 学習のまとめをする。</p>						
主 に 共 助 中 心 の 行 事									
3	未来へ	21	<p>防災の時間</p> <p>「将来のわたしへ」(第6章・1) ○将来、地震や津波に遭遇した場合でも自分の命を守ることができるよう、災害時の教訓や防災について学んだことの内面化を図る。 1 防災の時間に学習してきたことは誰の為の学習なのか考える。 2 めあてを知る。</p> <p>教訓を生かすために将来の自分に手紙を書こう。</p> <p>3 将来の自分へ向けて防災ノートにメッセージを書く。 4 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>防災意識を高くもち、自分自身の命を自分で守る大切さを理解できたか。 【防災ノート】</p>			略案No. 10	
		22	<p>学校行事</p> <p>【地震・津波想定避難訓練および鎮魂】 「将来のわたしへ」(第6章・1) ○地震・津波からの身の守り方を確かめ、将来、地震や津波に遭遇した場合でも自分の命を守ることができるようにするとともに、東日本大震災の災害時の教訓や防災について学んだことの内面化を図る。 1 旧消防署跡地からの避難の仕方について知る。 2 地震発生想定訓練 「3つのない」場所避難行動。 3 津波発生想定訓練 高台への避難行動。 4 みやぎ鎮魂の日の意義について知る。 5 東日本大震災の被害について知り、黙祷をささげる 6 学習のまとめをする。</p>	自助		<p>今の自分にできる取捨選択をすることができたか。 【観察・防災ノート】</p>	<p>落ち着いて素早く避難行動を取ることができたか。【観察】</p>	避難訓練(津波想定)みやぎ鎮魂の日	◎石巻市役所牡鹿総合支所
		23	<p>学級活動</p> <p>「復旧・復興へのあゆみ」(第7章) ○壊滅的な被害を受けた鮎川地区であるが、東日本大震災の際に、たくさんの支援をいただき、その支援をもとに少しずつではあるが、一歩ずつ確実に復興に向けて進んでいることを理解する。 1 3.11 から6年が過ぎたことを確認する。 2 めあてを知る。</p> <p>鮎川の復興のあゆみを知ろう。</p> <p>3 当時と現在でどのように変化したか考える。 4 鮎川の復興のために何ができるか考える。 5 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>鮎川の復興の様子について、資料をもと話し合いながら、理解することができたか。 【防災ノート】</p>	<p>将来の鮎川のために、自分たちに何ができるのか、具体的な方法について、判断することができたか。 【観察・防災ノート】</p>			



# 防災教育年間指導計画 5・6年生

## 目指す子ども像

<b>【自助】</b> 自分の身は自分で守る (知) 防災に関するより多くの知識をもっている。 (判) その場の状況を主体的に把握し、避難行動への判断ができる。 (行) 落ち着いて素早く行動する。	<b>【共助】</b> 助け合い・共に生きる (知) 自分たちが周りの人たちのために何をすれば役立つのかを知っている。 (判) 状況に応じて、自分たちができることを考えることができる。 (行) 自分たちができることを率先して行う。	<b>【公助】</b> 公の支援と備え (知) 災害時の国や県、各機関からの様々な支援や、その働きについて知っている。 (行) 牡鹿銀鱗太鼓の演奏で地域へ活力を与えるとともに、各方面からの支援に感謝の気持ちを表す。
---	--	---

			取扱時数 (※ 防災の時間… 10 回 行事… 6 回 学級活動… 5 回 総合学習… 2 回)					
月	回	取扱時数	副読本単元名・ねらい (○) 主な学習活動 (数字)	評 価 【方 法】			行事・略案 No	備 考 (○教科との関連・ ◎地域とのつながり)
				知識	判断	行動		
主 に 自 助 中 心 の 行 事								
4	学校での地震・津波対応	1	防災の時間 東日本大震災をわすれない (第1章・1) ○「命の大切さ」「絆」「避難行動の大切さ」等、鮎川の被災の状況を忘れず、後世に語り継ぐ大切さを理解する。 1 学習のめあてを知る。 <div>震災の時の鮎川のようなすを知ろう。</div> 2 東日本大震災の様子を思い起こす 3 震災時の鮎川の様子について絵本「トミジの海」を通して知る。 4 震災の被害を少なくするために、これから何が必要かについて考える。 5 今年度の防災教育 (防災の時間) の見通しをもち、防災教育の意義について知る。 6 学習の感想を防災ノートに書く。	自助	鮎川地区の東日本大震災の様子を知り、防災学習の見通しをもつことができたか。 【防災ノート】		略案 No. 1	◎齋藤富嗣さん
		2	学校行事 【地震・津波想定避難訓練及び引き渡し訓練】 「緊急地震速報を知っておこう」 (第3・2) ○緊急地震速報がどのようなときに流れるか理解する。また、震度の段階の違いを理解することで、緊急地震速報を見聞きした場合の「3つのない」場所を見つけ、「だんご虫ポーズ」をとるなどの安全行動を理解する。 1 地震発生時の避難の仕方について考える。 2 緊急地震速報機による訓練。「3つのない」場所へ一次避難。 3 校庭への二次避難。 4 訓練のふり返り。 5 引き渡し訓練。 6 親子で下校しながら危険箇所点検。	自助	緊急地震速報がどのようなときに流れるのか理解できたか。【防災ノート】	地震速報の情報からどのような避難行動をとるか判断できたか。【観察・防災ノート】	地震速報を聞いて、落ち着いて素早く避難行動をとることができたか。【観察】	
		3	学級活動 「地震の時の危険予測」 (第3章・1) ○学校、外出中に地震が起こった場合の危険を日頃から確認し、対応できるようにしておくことを理解する。 (児童用携帯マニュアルの確認) 1 避難訓練のようすについてふり返る	自助	地震によって起こり得る危険について理解できたか。 【防災ノート】	地震によって起こり得る危険を把握し、どのように避難行動をとるか判断する		○6年理科 「変わり続ける大地」

				<p>2 学習のめあてを知る。</p> <div>地震の危険について知り，危険から身を守る方法を考えよう。</div> <p>3 学校や地域で地震が起きた際の危険について考える。</p> <p>4 危険からどのように身を守れば良いか話し合う。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p>		<p>ことができたか。</p> <p>【観察・防災ノート】</p>			
5	知識の拡大	4	防災の時間	<p>「地震のしくみ」(第2章・2)</p> <p>○断層型とプレート境界型の地震が起こること，地震が起こる仕組みと鮎川では三陸沖で起こる地震が多いことやその被害を理解する。(市の防災副読本 P8~)</p> <p>1 地震がどうして起こるのか考え話し合う。</p> <p>2 学習のめあてを知る。</p> <div>地震の起こるしくみを知ろう。</div> <p>3 地震の起こるしくみについて知る。</p> <p>4 鮎川で起こりやすい地震について考える。</p> <p>5 複合災害・マグニチュードについて知る。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p>	<p>地震の起こる仕組みについて理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>			略案 No. 2	
主 に 共 助 中 心 の 行 事									
6	地域での地震・津波対応	5	防災の時間	<p>「津波の特徴」(第2章・3)</p> <p>○津波の特徴を理解するとともに，鮎川などの沿岸部で地震があったときには，「よりはやく，より高く，より遠くへ」などの津波に注意した行動をとることを知る。</p> <p>1 津波の特徴について分かっていることをクイズ形式で話し合う。</p> <p>2 学習のめあてを知る。</p> <div>津波の特徴を知り，津波から命を守る方法を考えよう。</div> <p>3 津波の起こり方を知る。</p> <p>4 陸地に押し寄せる津波の速さと高さについて知る。</p> <p>5 津波からどのように身を守れば良いか考える。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p>	<p>津波の特徴を理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>	<p>津波被害によって起こり得る危険や情報を把握し，どのような避難行動をとるか判断できたか。</p> <p>【観察・防災ノート】</p>		略案 No. 3	
		6	学級活動	<p>「津波の歴史」(第2章・4)</p> <p>○宮城県や石巻市はこれまでに何度も津波の被害にあってきたこと，またそれを後世に伝えられてきたことを理解し，東日本大震災を後世に伝えることの大切さを理解する。</p> <p>1 鮎川地区の津波波来，昭和三陸津波の写真を見て，作られた理由を考える。</p> <p>2 学習のめあてを知る。</p> <div>津波の経験から自分達が生かせることを考えよう。</div> <p>3 これまでの鮎川で津波被害があった歴史を知る。</p> <p>4 津波体験についてゲストティーチャーの話を聞く。</p> <p>5 東日本大震災の経験をどのようにしたら生かすことができるか話し合う。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p>	<p>宮城県・石巻市で起こった津波被害の歴史について理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>	<p>東日本大震災を風化させないために，自分達に実行できることがあるか判断する。</p> <p>【観察・防災ノート】</p>			◎地域ボランティア(東日本大震災・チリ地震津波経験者)
				【地震・津波想定避難訓練 (校外想定)】	自	津波が起きた際の	落ち着いて避難	落ち着いて避難	◎鮎川漁協婦人部

		7	学校行事	<p>「津波の歴史」(第2章・4)</p> <p>○津波からの避難行動を確認すると共に、津波の怖さや東日本大震災の教訓を下学年児童に伝える。</p> <p>1 鮎川港付近にて津波からの避難の仕方について知る。</p> <p>2 地震発生想定訓練 「3つのない」場所へ避難行動。</p> <p>3 津波発生想定訓練 高台への避難行動。</p> <p>4 津波の歴史について調べたことを発表する。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p>	助・共助	<p>身の守り方を理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>	<p>行動をとり、災害について伝えるためにどのような工夫をすればよいか考えることができたか。</p> <p>【観察・防災ノート】</p>	<p>行動をとることができたか。</p> <p>東日本大震災について、伝えることができたか。</p> <p>【観察】</p>		
7	知識の拡大	8	防災の時間	<p>「緊急地震速報を知っておこう」(第3章・2)</p> <p>○ 緊急地震速報がどのようなときに流れるか理解する。また、震度の階級の違いを理解することで、緊急地震速報を見聞きした場合の安全行動を理解する。</p> <p>1 緊急地震速報の音を聞く。</p> <p>2 学習のめあてを知る。</p> <div>緊急地震速報を見たり聞いたりしたら、どう行動すればよいのか考えよう。</div> <p>3 緊急地震速報を聞いたときの避難行動について考える。</p> <p>4 震度5以上の時に速報音が鳴ることを知り、震度5ではどのような被害状況になるのか考える。</p> <p>5 地震の後、津波からの避難行動の大切さを知る。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>緊急地震速報の仕組みやどのような時に流れるのかを理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>			略案 No. 4	
主に自助中心の行事										
9	気象災害対応	9	防災の時間	<p>「宮城県の気象災害」(第2章・1)</p> <p>○宮城県の気象災害について知り、自分達の地域でも起こりうる気象災害の危険性について理解する。(市の防災副読本 P37)</p> <p>1 気象災害の用語について話し合う。</p> <p>2 気象災害で起こる危険について予測する。</p> <p>3 学習のめあてを知る。</p> <div>宮城県で起こった気象災害について知ろう。 鮎川地域の危険について考えよう。</div> <p>4 宮城県で起こった気象災害を知る。</p> <p>5 鮎川の地域の危険性について考える。</p> <p>6 避難準備指示・避難勧告・避難指示について知る。</p> <p>7 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>宮城県での気象災害について知り、身の回りで考えられる気象災害について理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>			略案 No. 5	○5年理科 「台風と天気の変化」
		10	学級活動	<p>「風水害の危険と備えについて」(第2章・6)</p> <p>○大雨による洪水、土砂災害の危険の内、鮎川地区は土砂災害の危険が高い地域であること知り、気象情報に注意し、避難勧告や指示に従うことを理解する。</p> <p>1 台風によりどんな危険があるかを考える。</p> <p>2 学習のめあてを知る。</p> <div>台風の大雨や強風に起こる危険について知り、危険からの身の守り方を考えよう。</div> <p>3 副読本資料や資料映像を基に、台風による危険について考える。</p> <p>4 危険からどのように身を守れば良いか考える。(停電や強風によるガラスの破損)</p> <p>5 注意報や警報、特別警報について知る。</p>	自助	<p>気象災害時の避難行動について理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>	<p>気象災害によって起こりうる危険からどのような避難行動をとるか判断できたか。</p> <p>【観察・防災ノート】</p>			○5年理科 「流れる水の働き」 ○6年理科 「電気とわたしたちの暮らし」



9	気象災害対応	11	学校行事	【気象災害想定避難訓練（集中豪雨・高潮・積雪・落雷）】「風水害の危険と備えについて」（第2章・6） ○大雨により洪水、土砂災害、大雪などの様々な気象災害から身を守るための方法を理解する。 1 気象災害で起こり得る危険を話し合う。 2 危険を回避するために方法を班ごとに話し合い、実践する。（停電・強風による窓の破損・非常持ち出し袋の準備・避難所におけるトイレの確保） 3 各班の活動内容を交流する。 4 学習のまとめをする。	自助		気象災害によって起こりうる危険からどのような避難行動をとるか判断できたか。 【観察・防災ノート】	知識を活用して、安全な避難行動をとることができたか。【観察】	避難訓練(気象災害)	
		主に自助中心の行事								
10	家庭での地震・津波対応	12	防災の時間	「わが家の安全対策」（第3章・3） ○家具の固定などをして家庭で地震が発生したときの転倒などを防ぐ対策が命を守ることを理解する。 <div>（市の防災副読本 P7）</div> 1 自宅での地震への安全対策について話し合う。 2 学習のめあてを知る。 <div>地震に備え、家では日ごろからどのように安全対策をとっておけばよいのか考えよう。</div> 3 地震による負傷原因について知る。 4 家の中の安全対策について考える。 5 学習のまとめをする。	自助	地震に備えて、家具の固定や転倒などを防ぐ対策をすることの大切さを理解できたか。 【防災ノート】	家庭でできることを考え、自分達で実際に何ができるかを判断できたか。 【観察・防災ノート】		略案 No. 6	
		13	学校行事	【PTA合同避難訓練（防災備品を活用した訓練）】 「震災後の生活」（第5章・2） ○災害直後にはライフラインが止まることもあり、牡鹿地区ではライフラインの復旧までに時間を要することを知り、その備えや工夫して生活することが必要であることを理解する。 1 緊急地震速報機による訓練。 2 避難所想定訓練及び炊き出し訓練。 空き缶コンロによるアルファ米づくり・炊き出し豚汁 3 各家庭の非常持ち出し袋を紹介し合う。 4 学習のまとめをする。	自助	ライフラインが止まったときの生活の工夫について理解できたか。 【防災ノート】	ライフラインが止まったときに起こる課題をどのように解決できるか判断できたか。 【観察・防災ノート】	知識を活用して、課題解決する行動をとることができたか。【観察】	避難訓練(避難所想定)	◎PTA・学校前仮設住宅住民
		14・15	学級活動	「ハザードマップの活用」（第2章・7） ○石巻市から地域の災害に関するハザードマップが出されていることを理解する。また、想定をこえる災害が起きたときの対応について考えておくことを理解する。 1 石巻市の災害ハザードマップを見る。 2 学習のめあてを知る。 <div>鮎川地区のハザードマップ（逃げ地図）を作ろう。</div> 3 鮎川地区の災害（地震・津波・土砂崩れ）の危険箇所について地図上に書き入れる。 4 指定避難場所を地図上で確認する。 5 災害が起きた時に避難する場所（安全な場所）を書き入れる。 6 完成した地図をどのように活用するか話し合う。 7 学習のまとめをする。	自助	ハザードマップから自分の住んでいる地域の起こり得る災害について理解できたか。 【防災ノート】	ハザードマップを活用し、予想される災害からどのような避難行動を取るか判断できたか。 【観察・防災ノート】			

主 に 共 助 中 心 の 行 事									
11	避難所での対応	16	防災の時間	「助け合って生活するために」(第4章・1) ○避難所(清優館)では、多くの人々が身を寄せ合い、住民で自治組織をつくり、役割分担して生活を行ったことを理解する。 自分でもできる役割を率先して行うことを理解する。 1 避難所での生活経験について発表する。 2 学習のめあてを知る。 <div>避難所の様子について知り、自分の役割を見つけよう。</div> 3 避難所で大切なことについて考え発表する。 4 避難している人たちが行った仕事について知る。 5 自分達でもできそうな仕事について考える。 6 学習のまとめをする。	共助	避難所では、役割分担をして生活をしたり、自分にできることを進めたりすることの大切さを理解できたか。  【防災ノート】		略案 No. 7	○道徳6年 「地震で学んだこと」
		17	学校行事	【避難所想定避難訓練(防災教育発表)】 「わたしたちにできること」(第4章・2) ○避難所や鮎川地区の中で、自分達でもできる役割があることを考え、率先して行うことをの大切さを理解する。 1 避難所想定の避難訓練であることを知る。 2 避難所で起こる様々な課題について解決策を各班ごとに考え、実践する。 3 各班の活動を交流する。 4 学習のまとめをする。	共助	避難所や地域の中で自分達でもできる役割があることを理解できたか。  【防災ノート】	避難所の課題から、自分達で実際に何ができるか判断することができたか。  【観察・防災ノート】	避難訓練(避難所想定)	○5・6年総合 「牡鹿銀鱗太鼓」
		18	学級活動	「たくさんのありがとう」(第4章・3) ○震災直後から、県外や国外のたくさんの方々から支援をいただいたことを理解する。また、他の地域で災害があったときに支援活動を行っていることを理解する。 1 避難所想定の避難訓練をふり返り、助け合うことの大切さを確認する。 2 学習のめあてを知る。 <div>自分たちが支援するとき、どんなことができるか考えよう。</div> 3 東日本大震災で受けた支援について話し合い、支援を受けたときの気持ちを想起させる。 4 熊本地震の際に、自分達が行ったことについてふり返り、他の地域が災害に遭ったときに自分達にできる支援を考える。 5 学習のまとめをする。	共助	災害時には、県外や国外からのたくさんの支援があったことを理解できたか。  【防災ノート】	避難所想定の様子から、避難所ばかりではなく、他の地域で災害が起こったときに、自分達には、何ができるかを判断することができたか。  【観察・防災ノート】		
12	知識の拡大	19	防災の時間	「災害から私たちの生活を支える」(第5章・1) ○災害から、復興に向けて国や県などの様々な人たちの力によって支えられていることを理解する。 1 学習のめあてを知る。 <div>復興・復興に向けてどのような人たちが被災地を支えてくれたのか知ろう。</div> 2 復興・復興に向けて取り組んでいる人について知る。 3 復興・復興作業に関わった人たちの思いを知る。 4 「公助」の用語を知り、被災した際に必ず助けにきてくれる人がいることを理解する。 5 学習のまとめをする。	公助	災害からの復旧・復興に国や県などからの様々な支援によって、支えられていることを理解できたか。  【防災ノート】		略案 No. 8	

2	知識の拡大	20	防災の時間	<p>「災害時の情報収集」（第5章・3）</p> <p>○災害時には、震源地や津波に関する情報を素早く入手することがその後の対応に役立つことを理解する。また、伝言ダイヤルが安否確認の方法に有効であることを理解する。</p> <p>1 地震の際の情報収集について確かめる。</p> <p>2 学習のめあてを知る。</p> <div>災害が起き停電によって、テレビやインターネットが使えなくなったとき、何からどのような情報を集めるか考えよう。</div> <p>3 災害時どんな情報を入手する必要があるか考える。</p> <p>4 どんな方法で入手できるのか。</p> <p>5 災害用伝言ダイヤルについて知る。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>災害時の情報収集の方法を理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>			略案 No. 9	
主に共助中心の行事										
3	未来へ	21	防災の時間	<p>「あたたかい気持ち」（第6章・1）</p> <p>○悲しい時や怖い気持ちになったときの対処法について、人とのふれあいを通した心のケアの方法を理解する。</p> <p>1 リラックスしている時の気持ちについて確かめる。</p> <p>2 学習のめあてを知る。</p> <div>不安や悩みがあるときの気持ちのほぐし方を知ろう。</div> <p>3 不安などから気持ちの切りかえる方法を知る</p> <p>4 一人・二人で行うリラックス法を体験してみる。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>悲しい時や怖いときなどの心の不安をケアする方法を理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>			略案 No. 10	
		22	学校行事	<p>【地震・津波想定避難訓練および鎮魂】</p> <p>「生き方を考える」（第7章）</p> <p>○地震・津波からの身の守り方を確かめ、鮎川で災害にあった方の体験談や震災の祈念式典の意義から、命の尊さ、大切な人の死の悲しみなどを理解する。</p> <p>1 旧消防署跡地からの避難の仕方について知る。</p> <p>2 地震発生想定訓練 「3つのない」場所避難行動。</p> <p>3 津波発生想定訓練 高台への避難行動。</p> <p>4 みやぎ鎮魂の日の意義について知る。</p> <p>5 東日本大震災の被害について知り、黙祷をささげる</p> <p>6 学習のまとめをする。</p>	自助	<p>自分自身の命を自分で守る大切さを理解し、大切な人の死の悲しみを理解できたか。</p> <p>【防災ノート】</p>	<p>災害にあった方の体験談をもとに、予想される危険からどのように避難できるか判断することができたか。</p> <p>【観察・防災ノート】</p>	<p>落ち着いて避難行動をとることができたか。</p> <p>【観察】</p>	<p>避難訓練(津波想定)みやぎ鎮魂の日</p>	<p>○5・6年総合「牡鹿銀鱗太鼓」</p> <p>◎石巻市役所牡鹿支所</p>
		23	学級活動	<p>「お父さんとじいちゃんへ」（第7章）</p> <p>○教員の震災体験談や当時の小学生の震災体験作文から、命の尊さ、大切な人の死の悲しみなどを理解し、今、自分にできることを考えることの大切さを理解する。</p> <p>1 3.11の被害状況を知る。（犠牲者数・避難者数・原子力災害の現状）</p> <p>2 学習のめあてを知る。</p> <div>震災の経験を生かすために、何ができるか考えよう。</div> <p>3 副読本小学生の震災体験作文や石巻地域の方の震災体験作文を読む。</p> <p>4 経験を生かすために何ができるかを話し合う。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p>	共助	<p>防災意識を高くもち、自分自身の命を自分で守る大切さを理解できたか。【防災ノート】</p>	<p>今の自分に何ができるかを見つめ、自分にできることを取捨選択できたか。</p> <p>【観察・防災ノート】</p>			